

## 【愛媛の人口・将来の見通しについて（2020年推計値）】

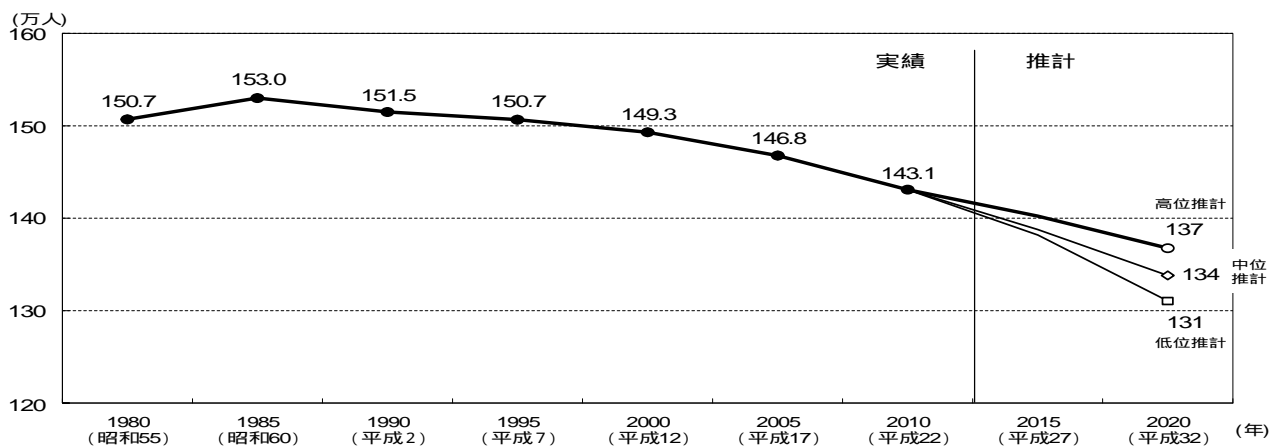
## 人口

## (1) 総人口（中位推計）

134万人程度（2010年比 9万1千人）

2000年以降、自然減少（死亡数>出生数）の幅が拡大傾向にあり、2020年の県総人口は134万人程度になると見込まれる。

【愛媛県の総人口の実績と見通し】



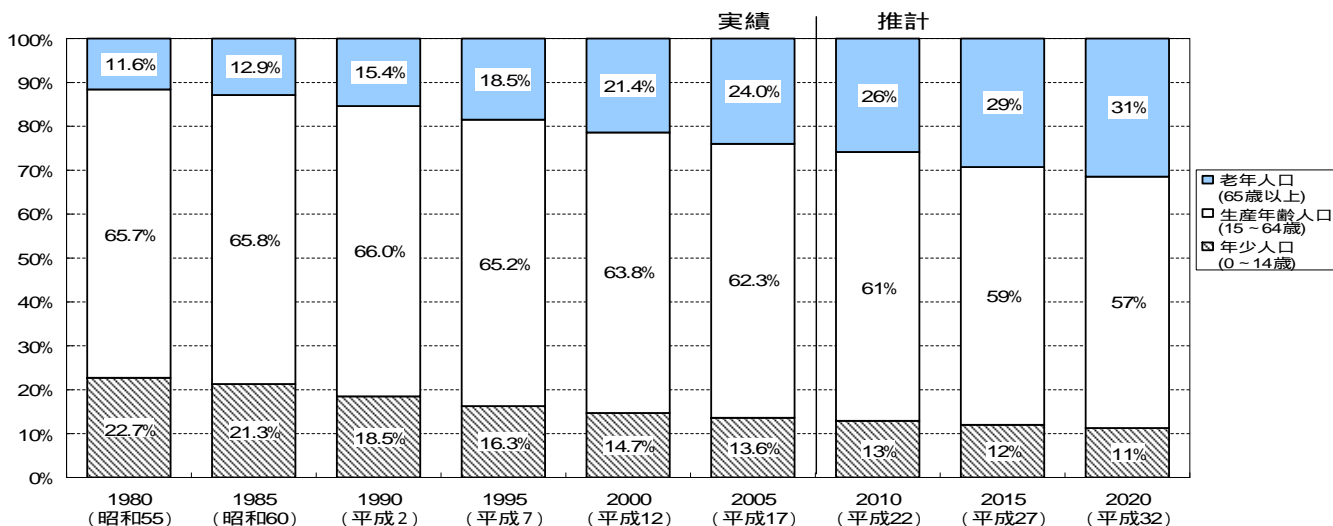
(注) 2010 (平成22) 年の値は平成22年国勢調査の速報値  
(資料) 総務省「国勢調査」

## (2) 年齢別の人口構成比

年少人口 11.0%程度、生産年齢人口 57.0%程度、老年人口 31.0%程度

老年人口（65歳以上）の占める割合は、団塊の世代（1947～1949年生まれ）が65歳以上となる2015年に大きく上昇し、2020年には30%を超えると見込まれる。

【愛媛県の年齢階層別人口の実績と見通し（中位推計）】



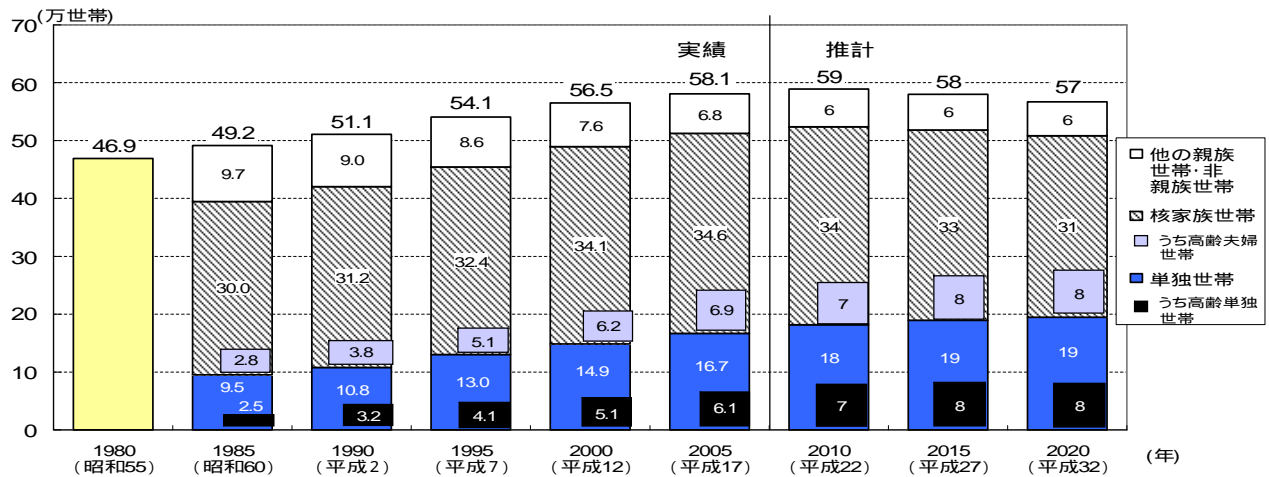
(注) 四捨五入の関係で、内訳の合計が100%とならない場合がある。  
(資料) 総務省「国勢調査」

(3) 一般世帯

57万世帯程度(2005年比 1万1千世帯)

核家族化の進行等を背景に増加傾向にあったが、人口減少の影響から2010年以降は減少し、2020年には57万世帯程度になると見込まれる。

【愛媛県の類型別一般世帯の実績と見通し(中位推計)】



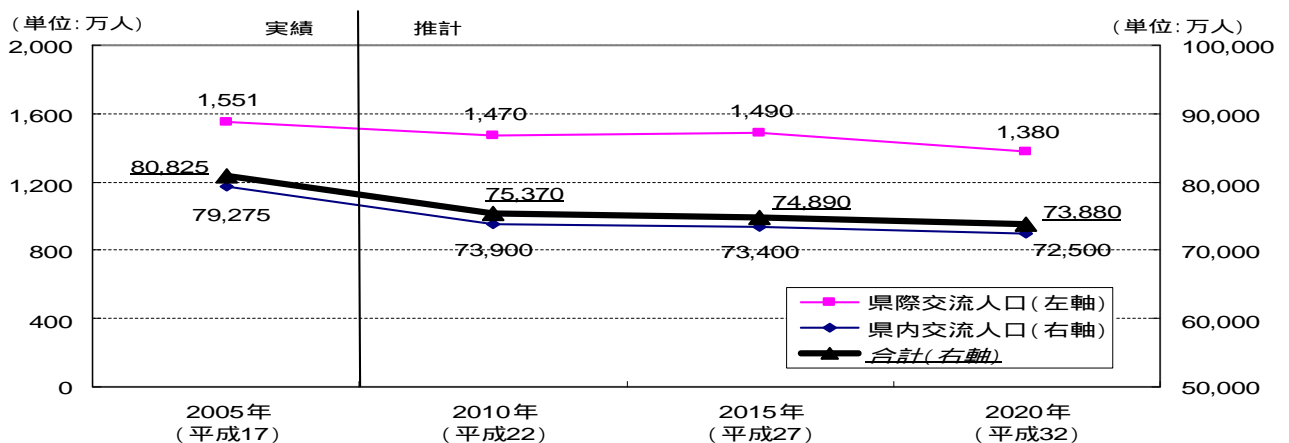
(注) 家族類型の区分は昭和60年国勢調査より。四捨五入の関係で、内訳の合計が総数と一致しない場合がある。  
(資料) 総務省「国勢調査」

交流人口

7億3,880万人程度(2005年比 6,945万人)

国土省の旅客流動量の統計データを基に、県外から愛媛県を訪れる人を「県際交流人口」、愛媛県内における人の移動を「県内交流人口」と定義し、観光客をはじめ、ビジネス来訪者や通勤・通学者を含めた交流人口を算出すると、日本全体で人口が減少すると考えられることから、県際交流人口、県内交流人口ともに減少することが見込まれる。

【愛媛県の交流人口の実績と見通し(中位推計)】



(注) 四捨五入の関係で、内訳の合計が総計と一致しない場合がある。  
(資料) 国土交通省「第4回 全国幹線旅客純種追加調査」、「旅客世帯種追加調査」

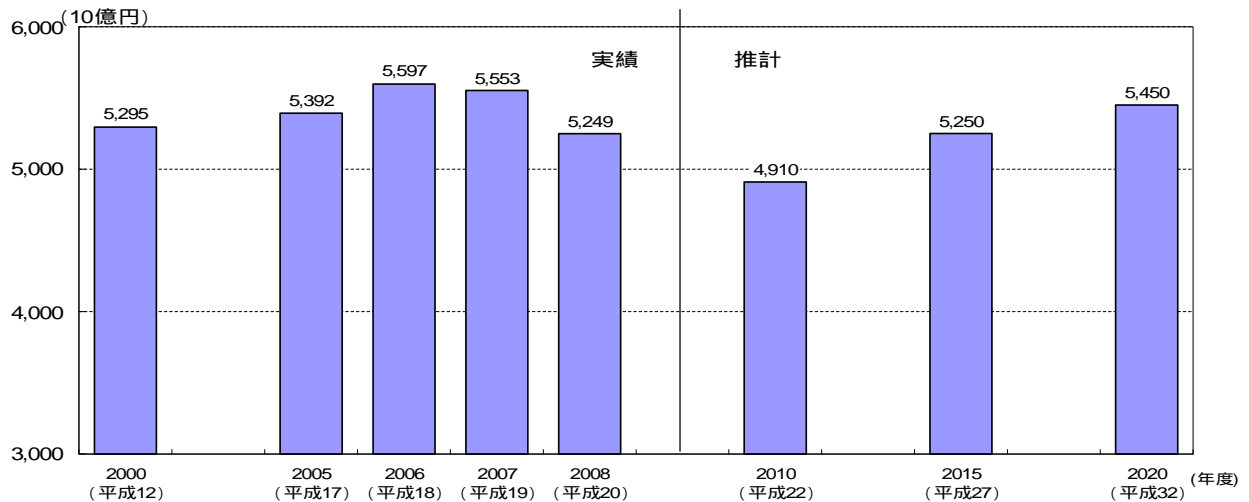
## 経済

### (1) 県内総生産(実質)

5兆4,500億円程度(2008年比 +2,008億円)

2008年の米国の金融危機に端を発した世界的な不況の影響を受け、大きく落ち込んだ県内総生産は、その後、中国をはじめとする新興国への輸出の増加やサービス産業の需要拡大等により、2020年には5兆4,500億円程度まで回復すると見込まれるが、海外経済の下振れ懸念や為替レートの変動といった景気の下押しリスクが存在することに注意する必要がある。

【愛媛県の県内総生産(実質)の実績と見通し】



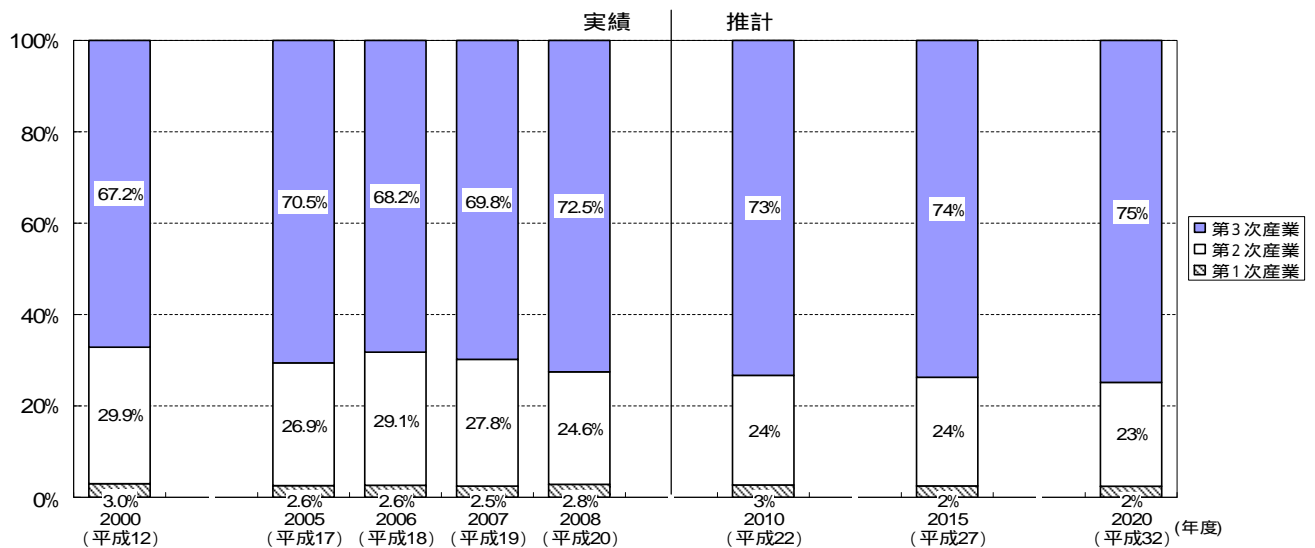
(資料) 愛媛県「平成20年度 愛媛の県民経済計算」

### (2) 産業別の構成比

第1次産業 2%程度、第2次産業 23%程度、第3次産業 75%程度

第1次産業と第2次産業の割合が低下する一方で、サービス産業の需要拡大等を背景に、第3次産業の割合は現在より上昇すると見込まれる。

【愛媛県の県内総生産(実質)の産業別構成比の実績と見通し】



(注) 四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。

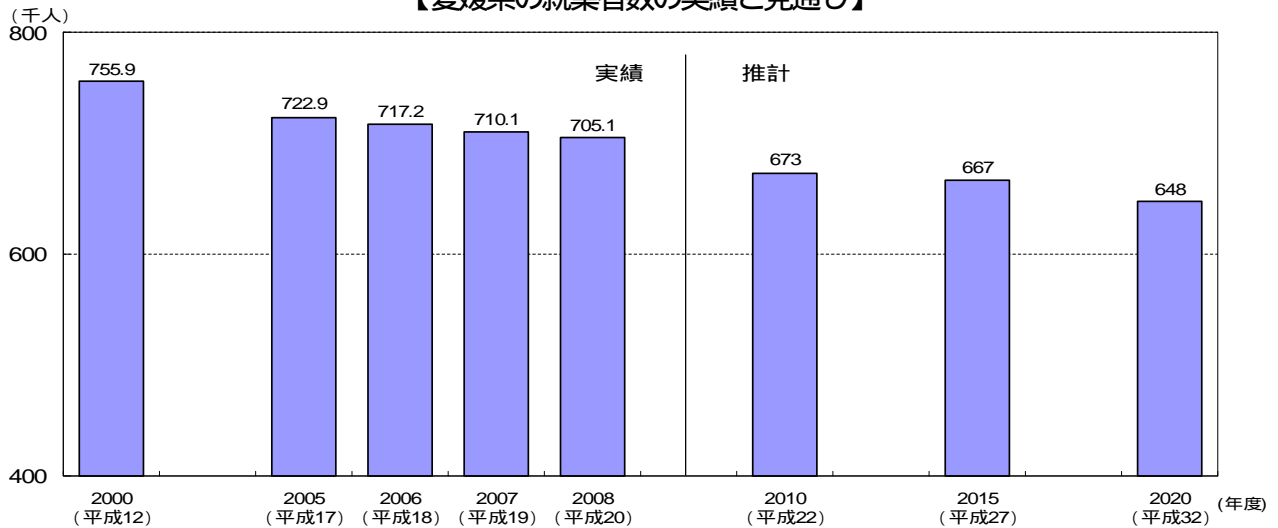
(資料) 愛媛県「平成20年度 愛媛の県民経済計算」

### (3) 就業者数

64万8千人程度(2008年比 5万7千人)

少子・高齢化に伴う生産年齢人口の減少により、2020年には64万8千人程度になると見込まれる。

【愛媛県の就業者数の実績と見通し】



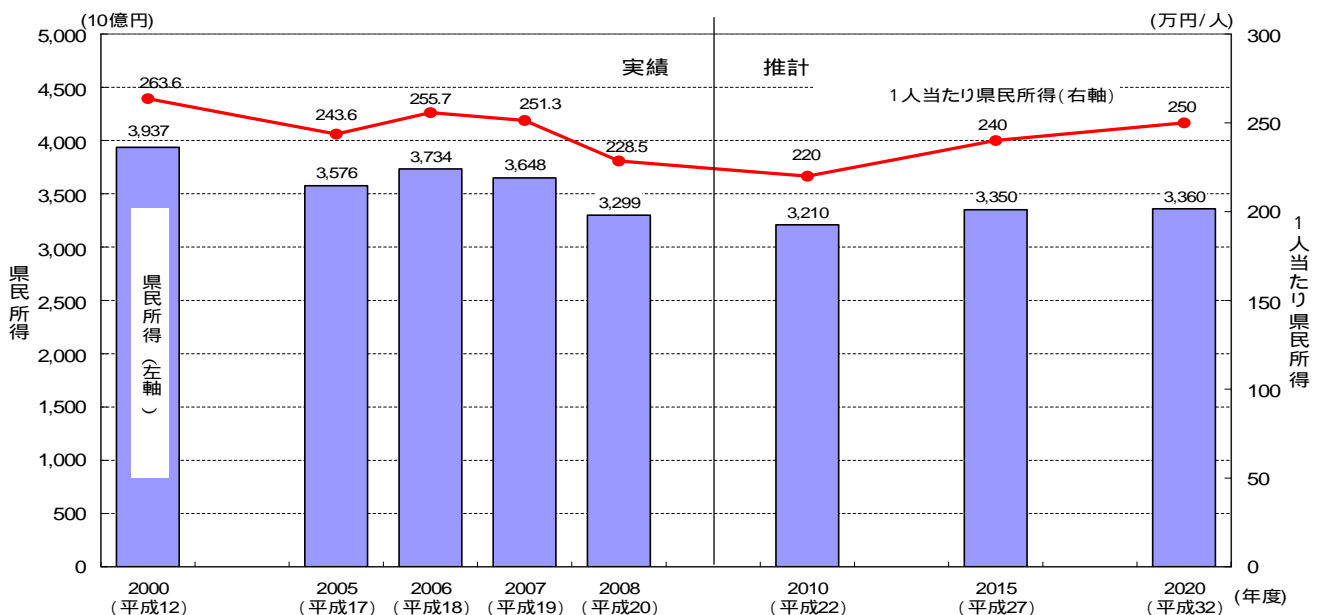
(資料) 愛媛県「平成20年度 愛媛の県民経済計算」

### (4) 一人当たり県民所得

250万円程度(2008年比 +21万円)

県民所得は伸び悩むものの、総人口が減少することにより一人当たり県民所得は、2020年には250万円程度まで回復すると見込まれる。

【愛媛県の1人当たり県民所得の実績と見通し】



(注) 一人当たり県民所得=県民所得÷総人口

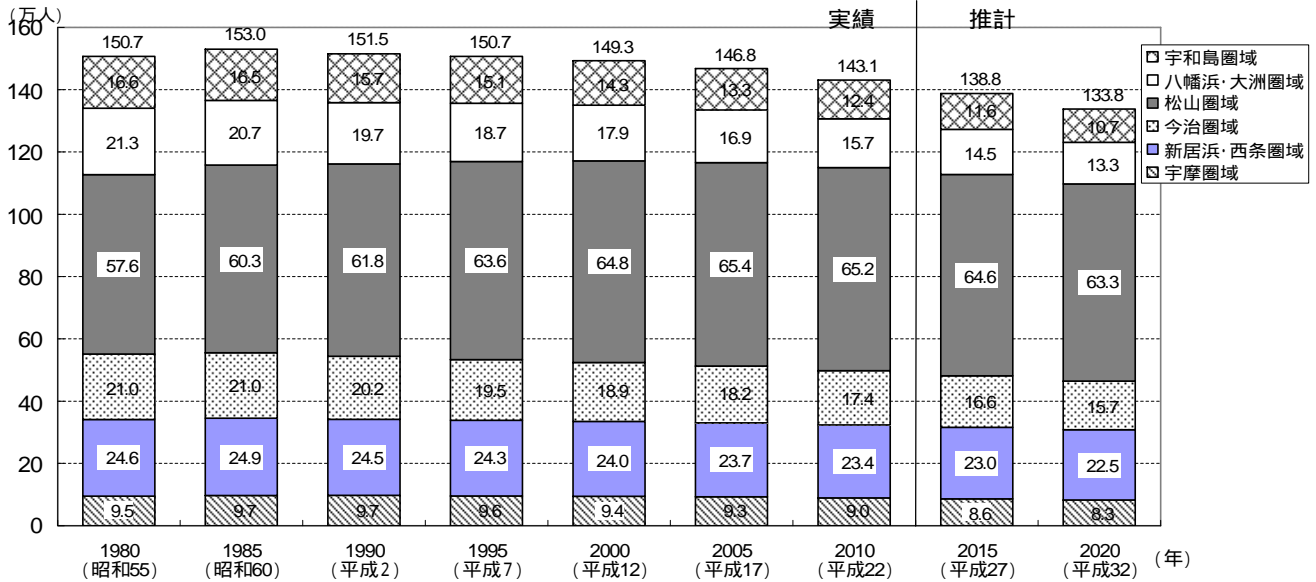
(資料) 愛媛県「平成20年度 愛媛の県民経済計算」

## 圏域別人口・総生産

### (1) 圏域別人口

圏域別人口については、八幡浜・大洲圏域、宇和島圏域といった南予地域における人口減少のペースが速く、今後最も早く高齢化が進むと見込まれる。

【愛媛県の圏域別総人口の実績と見通し】



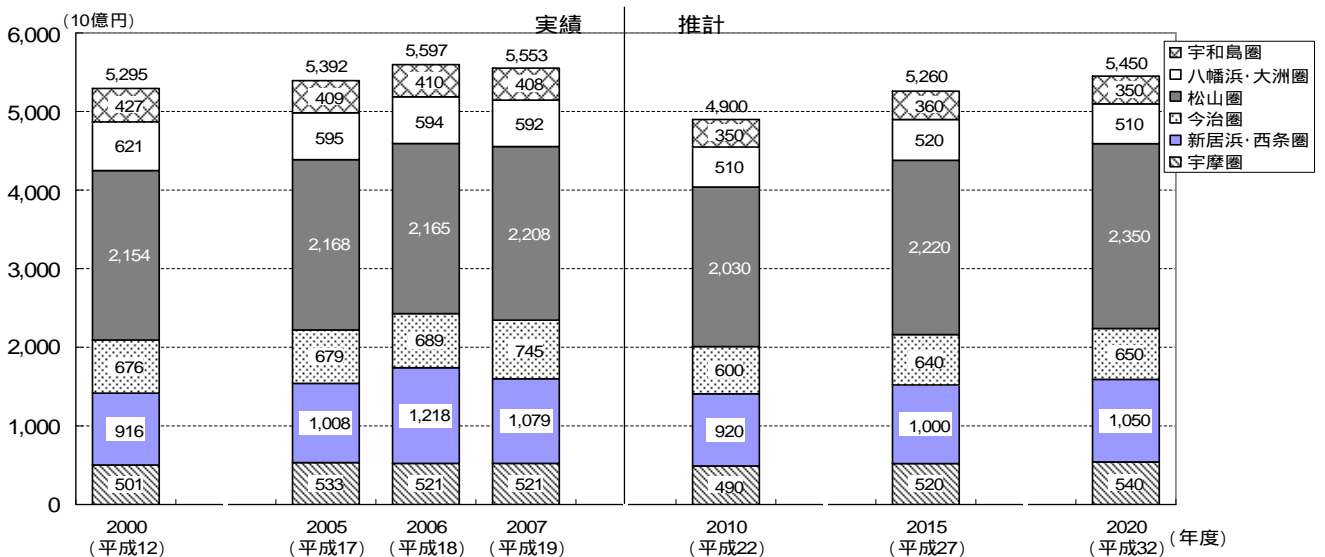
(注) 2010 (平成22) 年の値は平成22年国勢調査の速報値

(資料) 総務省「国勢調査」

### (2) 圏域別総生産

各圏域の総生産は、2010年以降、第2次産業と第3次産業の占める割合が高い東予地域と中予地域で回復基調となる一方で、第1次産業の占める割合が高い南予地域では、伸び悩むと見込まれる。

【愛媛県の圏域別総生産の実績と見通し】



(注) 実績期間の圏域別総生産は、各圏域の総生産の合計が県内総生産(実質)と一致するように計算した推計値

(資料) 愛媛県「平成20年度 愛媛の県民経済計算」、「平成19年度 愛媛県市町民所得統計」